

予報期間 10月27日から11月2日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 29日から30日にかけて、高気圧が本州付近から日本の東へ移動する。前線が日本の南にのびる。
- 31日は、高気圧は日本のはるか東へ移動し、日本付近は気圧の谷になる。
- 11月1日は、低気圧が日本の東を北東に進む。
- 2日は、別の低気圧が北日本に進み、大陸の高気圧が東シナ海に張り出す。

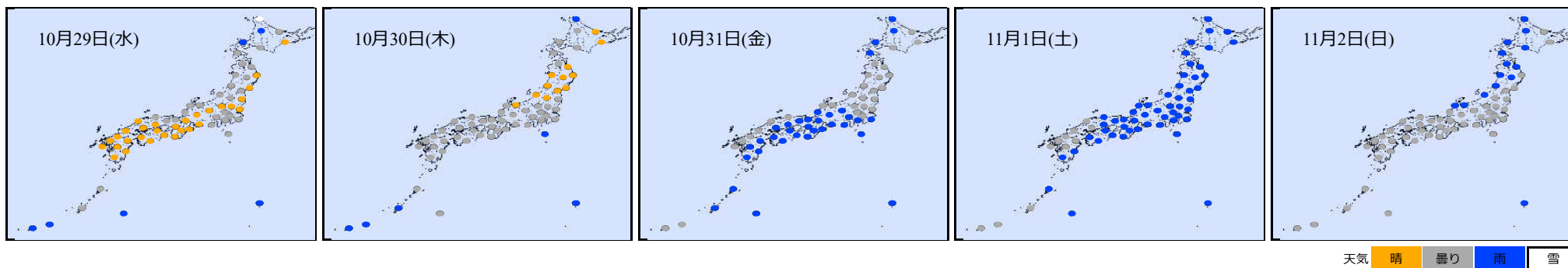
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 31日頃は、湿った空気の影響で東日本から西日本にかけての太平洋側では大雨になるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

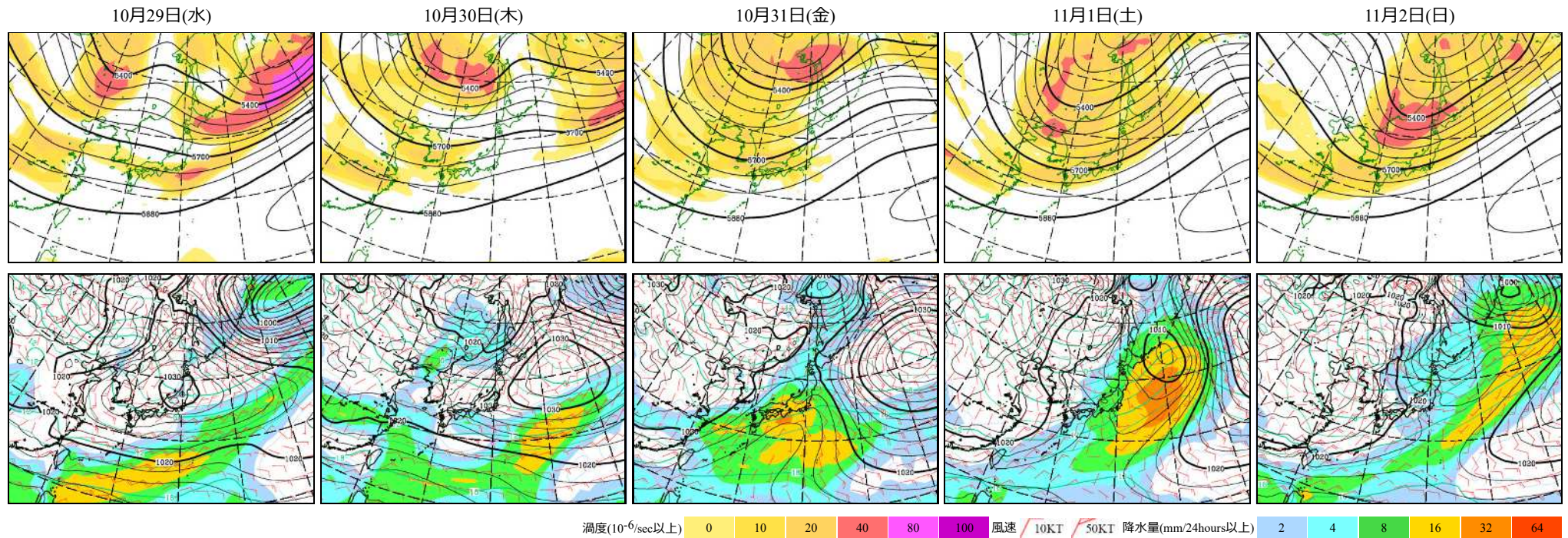
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

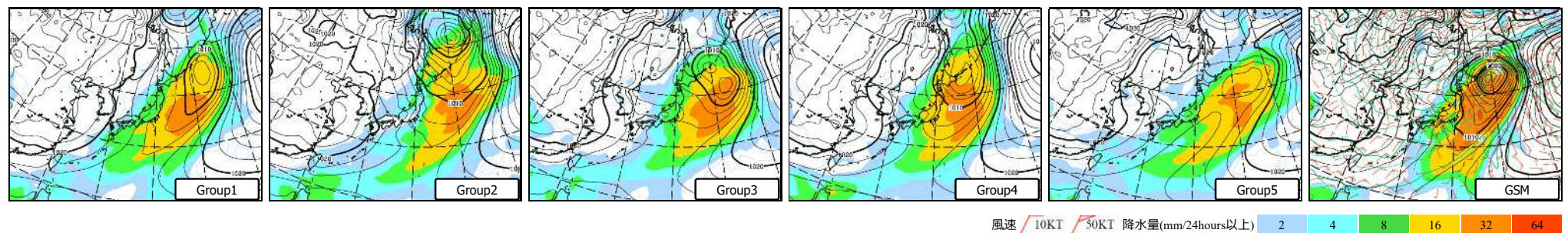


- 北日本と東日本日本海側は、晴れる所もあるが曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、29日は晴れる所が多いが、その後は雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、30日に北日本を進むリッジが強まり、11月1日頃に朝鮮半島付近に進むトラフはやや深くなった。地上の気圧配置の予想は、31日は本州南岸付近で気圧の谷が明瞭になり、1日は千島近海に低気圧が予想されるようになった。
- 1日から2日にかけて日本付近に進むトラフの予想が初期値変わりしたモデルが多い。地上の低気圧の位置にはまだばらつきがあるが、トラフやリッジの流れはおおむね揃っている。
- 1日の低気圧の位置は、単独モデルでは千島近海、北海道付近、千島の東と分かれているが、ENSには各モデルに近いメンバーの他に、日本の東やカムチャツカ半島付近に進むメンバーもあり、不確実性が大きくなっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- FEFE19では、31日は雨域が北日本まで広がっているが、各モデルの予想を参考に北への広がりを縮小して考える。